

コシヒカリの適期刈取りについて

コシヒカリの出穂後の気温は平年並みで推移し、稲刈り時期は平年並みと見込まれます。

今年は、ほ場ごとのバラツキが大きいため、必ず籾の黄化状況を確認し、刈遅れによる胴割米を防止するため、適期刈取りの徹底と適正な乾燥調製に努めましょう。

1 水管理

- (1) 刈取りの5～7日前まで間断かん水を行い、稲体の活力維持と登熟向上に努めましょう。
フェーンが予想される場合は、予め湛水しましょう。

2 クサネム(雑草)の抜取り

- (1) クサネムの種子は一般的な調製では除去できません。コンバインの中に入らないように、事前に抜取りましょう。

3 コシヒカリの刈取時期

- (1) 籾の黄化率85%で刈取りましょう。

【刈取適期の目安】

出穂期	刈取適期
7月31日	9月9日頃
8月3日	9月12日頃
8月6日	9月16日頃

- (2) ほ場ごとに出穂期がバラついています。

必ず籾の黄化状況を確認しましょう。

また、水口等生育が遅い場合は、部分刈りしましょう。

4 乾燥・玄米水分

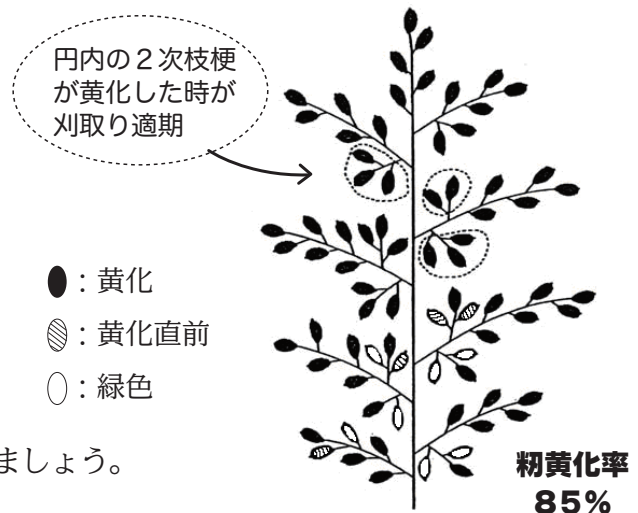
- (1) 乾燥時の気温が高く、初期の籾水分が低い場合は、送風温度を基準より5℃程度低くし乾燥速度を毎時0.6%以内に下げましょう。初期の籾水分が高い場合(25%以上)は、送風温度が高いと胴割米の発生が多くなるため送風温度を低く設定し、乾燥速度が毎時0.8%を超えないようにしましょう。

- (2) 青米の混入程度により停止水分を設定しましょう。

【乾燥機停止水分の目安】

100粒中の青米粒数	0～5粒	6～10粒	11粒以上
乾燥機停止後の水分変化	乾く(-0.5%)	変わらない	もどる(+0.5%)

- (3) 玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。玄米水分が17%以下になったら、手動水分計でこまめに測定し、過乾燥米の発生を防止しましょう。



秋の農作業安全運動展開中 8月20日～10月20日

ワラの詰まりはエンジンを止めて！補助者との合図や確認を心がける！